

一 小田原北条氏

北条早雲そううんは、姉あねがとついでいた駿河するがの国しずおかけん（今の静岡県東部）の今川氏いまがわしを頼たよって京都きょうとからくんだり、勢力せいりきを強め伊豆いずに攻め入りました。そして、それまで小田原を支配しはいしていた大森氏おおもりしに代わって小田原城を手に入れ、さらに、相模地方さがみの中部から東部を支配しはいしていた三浦氏みうらしをほろぼして相模の国（今の神奈川県）を治めるようになりました。

早雲のあと、武蔵むさし（今の埼玉県・東京都・神奈川県東部）にまで、その領地りょうち（支配しはいしていた土地）を広げたのが、二代目の北条氏綱うじつなです。氏綱は、頭のよい優れた武将ぶしやうで、早雲のあとを受けついで力を広げ、戦国大名としての地位ちゐを確かなものにしていきました。また、当時火事で焼けて失われていた鎌倉の鶴岡八幡宮の再建にも力をつくしました。

関東地方のほぼすべてを支配するようになったのが、三代目の氏康うじやすの時代です。戦国時代せんごくを代表する有名な武将である上杉謙信うへすぎけんしんと武田信玄たけだしんげんは、それぞれ大軍を率い

て小田原城を攻めましたが、氏康は上杉、武田の軍勢ぐんぜいから小田原城を守りました。
氏康の子、四代目氏政うじまさは、弟たちとともに、関東に広がった領地を、その当時の
有力な武将たちと同盟を結ぶなどして守りました。

北条五代の最後となる五代目氏直うじなおは、豊臣秀吉の大軍に小田原城を囲まれた時、
三ヶ月間も立てこもって戦いました。

早雲から氏直までの五人の武将たちは、小田原城を中心に、人々が平和に安心し
て暮らせる国づくりに努め、領地に住む人々からもらったわれていました。北条五代
は、優れた武将であり、優れた政治家でもありました。

なお、北条五代のことを、後北条氏ごほうじょう、または小田原北条氏とも呼ぶのは、鎌倉時
代に將軍しょうぐんを助けて政治をおこなっていた執権しっけんの北条氏と区別するためです。

後北条氏系図

数字は歴代の小田原城主を示す。

北条氏綱



北条氏康



北条早雲

